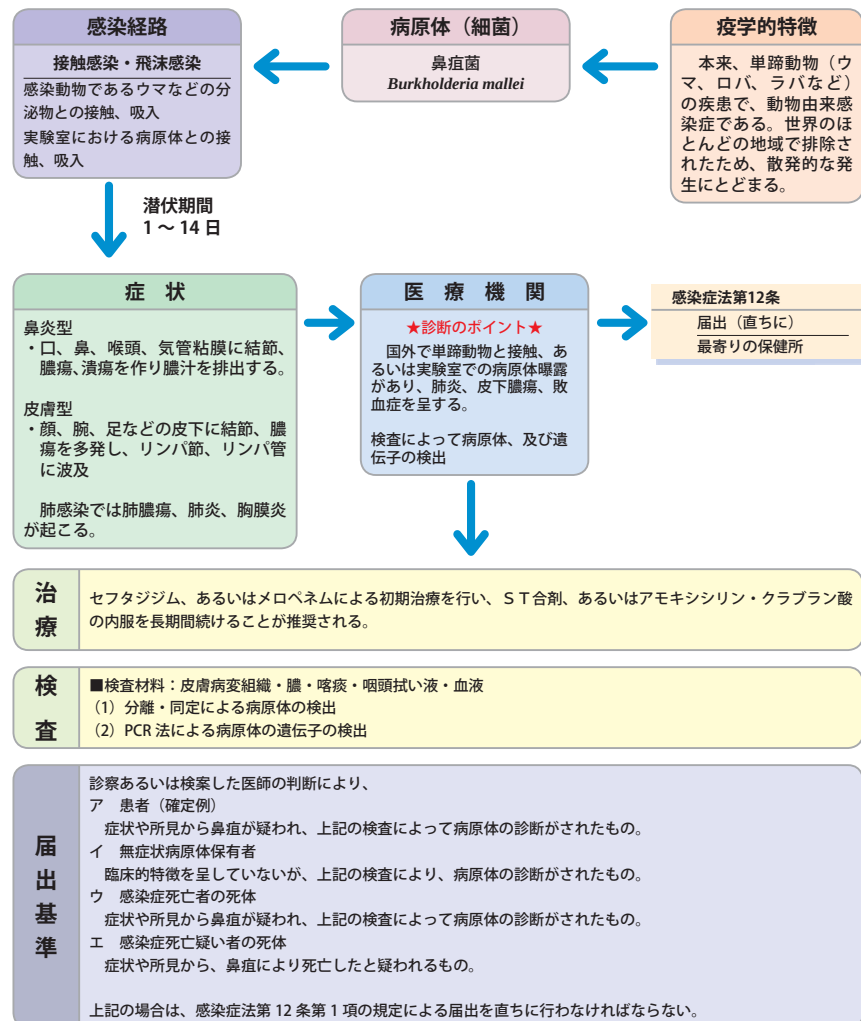


(29) 鼻疽 ……四類感染症

Glanders



参考文献

- (1) BART J. CVRRIE : Burkholderia pseudomallei and Burkholderia mallei : Melioidosis and Glanders. Principles and Practice of Infectious Diseases. 2000
- (2) Workshop on treatment of and postexposure prophylaxis for Burkholderia pseudomallei and B. mallei infection, 2010. Emerg Infect Dis 2012;18:e12.

発生状況

近年、家畜における防疫対策によって、わが国を含めた世界の多くの地域から排除されたが、アフリカ、アジア、中東、中南米での散発的な発生が報告されている。
また、農業テロや生物テロを目的とした病原体の使用が懸念されている。

臨床症状

局所型と肺炎、敗血症、慢性感染に分けられる。全身症状としては、発熱、筋肉痛、胸痛、頭痛が認められる。敗血症となった際には、無治療では、致命的となりうる。慢性感染では肝臓・脾臓をはじめ、肺、筋肉、皮下、中枢神経へ膿瘍を形成する。

検査所見

- (1) 分離・同定による病原体の検出
- (2) PCR法による病原体遺伝子の検出
- (3) 抗体価の上昇の検出

病原体

鼻疽菌 (*Burkholderia mallei*)

感染経路

病原体保有動物である、ウマなどの分泌物を吸入および、それらとの接触で感染する。
類鼻疽と異なり、ヒト-ヒト感染もありうるとされている。

潜伏期

1～14日、まれに数年に及ぶこともある。

行政対応

診断した医師は、直ちに最寄りの保健所に届け出る。

拡大防止

動物で流行が発生している際には病原体保有動物に近寄らないようにする。生物テロで使用された場合の曝露後発症防止として、ST合剤、あるいはアモキシシリン・クラバン酸を21日間内服することが推奨される。

治療方針

セフトアジジム、重症例ではメロペネムを初期に10～14日間以上使用する。その後、ST合剤、あるいはアモキシシリン・クラバン酸の長期内服による除菌が推奨される。投与期間は12週間以上が目安である。